## 36.うつ病に関連した身体の痛みとその影響

河村葵[1)]、下寺信次[1)]、上村直人[1)]、藤田博一[1)]、古川壽亮[2)]、井上新平[1)]
[1)]高知大学医学部神経精神科学教室、[2)]京都大学大学院医学研究科健康増進・行動学分野

1. 背景と目的

近年、うつ病に関連した身体の痛みについての研究が数多く行われており、専門家の間での関心は高まっている。しかし、うつ病治療の臨床現場において、痛み症状がどのように扱われ、どのような影響を及ぼしているのか、その実態は不明である。そこで、本研究は日常診療におけるうつ病に関連した身体の痛みの経験頻度及び性状、さらには医師・患者の間でこのような痛みがどれほど、またどのように認知されているのかを調査し、日本での精神科医療における「うつ病に関連した身体の痛み」の現在の位置づけを明らかにした。

2. 方法

うつ病患者およびうつ病患者の治療に携わる医師（精神科医、心療内科医、一般内科医）を対象に、調査会社を通じてインターネットを媒体としたアンケート調査を行った。対象患者は 20 歳から 59 歳までの男女 848 人であり、内 663 人の調査を完遂した。また、医師に対する調査では、調査を完遂した医師数は 456 人であった。無記名調査ではあるが対象者が特定されることがないように倫理的な配慮は十分に行った。

3. 結果

うつ病患者の 64.0%がうつ病に関連した身体の痛みを有していた。痛みの起こる部位は頭、肩、胃、首、四肢、腰、背中等、多岐であり、頭痛を訴える患者が 35.7%と最も頻度が高かった。痛みを有する患者の 72.1%が「痛みは精神症状に影響を及ぼす」と感じており、68.6%の患者が「痛みはうつ病改善の妨げとなっている」と感じていた。「痛みがうつ病の症状だと思わなかった」という理由を筆頭に、主治医に痛み症状を話していない患者は、痛みを有する患者の 36.8%であった。医師に対するアンケート結果からは、83.2%の医師が「痛みは精神症状に影響を及ぼしている」と思っていること、約半数(52.8%)の医師が「痛みはうつ病の改善を妨げる」と感じていることが分かった。

4. まとめ

うつ病患者が身体の痛みを有する頻度は高く、痛みがうつ病の回復に悪影響を与えている可能性が高い。うつ病に痛みが起こりやすいことはまだまだ知られておらず、臨床現場でさらなる認識が必要である。患者と医師双方の主観を調査した結果は、「うつ病に関連した身体の痛み」がうつ病治療に与える影響が大きい事を示しており、今後の日本の精神科医療でうつ病による痛みに対する関心が高まる事が期待される。